

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091800070
法人名	社会福祉法人 全和会
事業所名	グループホーム 鯉田
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市鯉田柳ヶ谷1522-1 (電話) 0948-28-0032

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年3月5日	評価確定日	平成20年4月8日

【情報提供票より】(平成20年2月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)20,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(毎年20,000円)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	960 円		

(4) 利用者の概要(2月21日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	68歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	廣瀬医院 / アイ歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム鯉田は飯塚市の郊外の閑静な住宅地の一角にある。建物の外部には菜園や遊歩道と広い庭がある。室内は天井が高く吹き抜けて日当たりも良く、全体的に大変明るい。リビングのガラス窓は広く取られ、近くの民家の屋根瓦や梅林、山そして目を転じれば国道200号線の車の往来があり、静と動を楽しむことができる。対面式になっている事務室や厨房からさりげなく見守られ、個々の入居者が自分の居場所を決め、静謐な環境で穏やかに過ごされている。入居者の暮らしも一人ひとりの意向と状態をふまえながら、生活リハやレクリエーションを実施し、動きのある暮らしに努めている。開設間もないホームではあるが、母体となる法人、複数の福祉事業展開によりノウハウの蓄積がある。管理者も介護経験が豊かで日々の業務についても、「徹底した現場主義」で臨みヒアリングを通して感じられ非常に頼もしい。現在を「改变期」と位置付け、理念はもとよりアセスメント・介護計画・研修・マニュアルなどの達成状況を見直し、入居者一人ひとりの意向の実現に努めている。今後は地域の一員としての責務を果たしてゆくことが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての評価評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回初めての外部評価の実施ということで、「あるがままの実際を見てもらった上で、評価内容を日々の業務に反映したい」との意識・意向を職員間で共有し、管理者・ケアマネジャー・看護師・介護職員がそれぞれの役割・立場をふまえ真剣に自己評価を行っている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に2ヶ月ごとに開催されている。事前に検討事項を委員に文章で知らせ、充実した会議になるように努めている。内容として地域へ向けて、グループホームの理解を高める啓発活動や行事案内など入居者も地域の住民であることをアプローチしている。また、参加者の要望を受け、会議内容を公民館に掲示するなど地域に公表している。会議では、入居者の過ごし方や非常時・感染防止対策についても検討されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	設立1年未満で、職員も入居者・家族もグループホームの出発は一緒で、お互いにこのホームを良いものに作りあげたいという熱意がある。そのため、「家族の要望は必ずある」という観点で、面会時には家族に積極的に聴き取りを行っている。また、家族に意見や要望を言っていただけるように話しやすい雰囲気・環境づくりに努めている。運営推進会議でも家族の要望を受けとめ、レクリエーションを工夫するなど運営面で活かす取り組みを行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議には自治会長・民生委員がメンバーとして参加している。顔見知りの自治会長・民生委員の家族や知り合いを通じてグループホームの餅つき大会に地域の方の協力を得ている。その餅を近隣の家に配ったり、お返しに正月の飾り物をいただいたり交流ができています。自治会主催の「いきいきサロン」に入居者が参加している。今後は自治会にも加入する予定である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設にあたり、職員全員で話し合い、独自の理念「笑顔とやさしさ・清潔・整理整頓」をつくりあげている。今後は、理念の見直しを含め検討する予定である。グループホームは地域密着型サービスに位置づけられるため、その役割を果たすことが求められ、理念の中に地域との関係を謳う内容が求められる。		理念の達成状況をみながら、今後は理念の見直しを行う予定である。その際、平成18年の介護保険法の改正に伴い、地域密着型サービスの役割をふまえ、「この地域でどのようにその人らしく暮らしていくのか」などの内容を理念に加えるなど修正が求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げ、常時、理念と日々の業務との関連性を問いかね、「この業務は何の為にするのか、入居者をどのように支援していくのか」を考慮しながら、職員の理念の理解を高め、日頃のケアに結びつくように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議には自治会長・民生委員がメンバーとして参加している。顔見知りの自治会長・民生委員の家族や知り合いを通じてグループホームの餅つき大会に地域の方の協力を得ている。その餅を近隣の家に配ったり、お返しに正月の飾物をいただいたり交流ができています。自治会主催の「いきいきサロン」に入居者が参加している。今後は自治会にも加入する予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価のため、この機会にそれぞれの役割と業務を再検討したいという意気込みを強く感じた。特に業務のスムーズな動線の確保による時間の短縮化は、入居者とのふれあいの時間をできるだけ多く取れることを実現した。このように日々業務の中で工夫が行われ、外部評価も今後の中で活かしたいという意気込みを感じた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヶ月ごとに開催されている。事前に検討事項を委員に文章で知らせ、充実した会議になるように努めている。内容としては地域へ向けてグループホームの理解を高めるための啓発活動や行事案内など入居者も地域の住民であることをアプローチしている。また、参加者の要望を受け、会議内容を公民館に掲示するなど地域に公表している。会議では、入居者の過ごし方や非常時・感染防止対策についても検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケースワーカーや県社協職員の定期的な訪問があり(生活保護制度利用の支援の為)連携を図っている。また、随時、市町村との連携を図り、情報交換を行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じて制度活用に努めており、実際には権利擁護事業制度を活用している入居者がおり、権利擁護を活用できるように支援している。今後は運営推進会議などでも、制度の理解を高めるなど期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族の面会が1週間に1度あり、その都度、家族とのコンタクトが取れ、直接近況報告を行っている。遠方の家族には、随時電話で報告している。過去には便りを発行しており、遠方の家族には定期的に便りを出されるなど検討してみたいはいかがでしょうか？		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族の要望は必ずある」という観点で、面会時には家族に積極的に聴き取りを行っている。また、家族に意見や要望を言っていただけるように話しやすい雰囲気・環境づくりに努めている。運営推進会議でも家族の要望を受けとめ、レクリエーションを工夫するなど運営面で活かす取り組みを行っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職の際には、方針として入居者一人ひとりに納得が得られるように説明を行っている。例えば「子どもさんが手のかかる時期である」「夫の転勤のため引越しをしなければならぬ」など。入居者は「やむをえないね」「がんばってね」と言葉をいただいている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用については、性別・年齢に関わらず、「福祉の基本姿勢を有する者」を最優先としている。法人内に複数の事業所がある為、人事についても、職員の能力を活かせるように適材適所の配慮を行っている。勤務についても、職員のプライベートを尊重し、希望を配慮し働きやすい環境づくりに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	現在、グループホームの体制づくりや業務改善に取り組んでいるので、日常的には現場でのケアの実際の中で啓発に努めている。今後は、内外の研修参加により、更に人権に関する意識を高めることを期待したい。		今後は、人権に関する研修などの情報収集に努めるなど、外部や内部での研修充実を期待したい。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	OJTが効果的との判断から、管理者が積極的に現場に入り、職員一人ひとりの経験年数や能力に応じて、段階的に進めている。「まず管理者自らが実行し、その後指導する」という方針を管理者が貫き、日常の中で職員のスキルアップを意識した現場での研修に重点をおいている。今後は、外部研修の参加を期待したい。		現場での教育が徹底され、仕事の場を研修とされている。現場を離れ、外部での研修に参加することは客観性と日々の介護を科学的に裏づけできる機会になると思われる。今後の外部研修の参加を期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	法人内のグループホームと夏祭りなどの行事を通してふれあい・交流の機会を持っている。管理者間の行き来はあり、情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。今後は他法人の同業者との交流や連携を図る取り組みが求められる。		グループホームの質の確保のためには、他法人の同業者との交流や連携が不可欠であり、同業者とのネットワークにより、ホームや地域全体としてのサービス水準の向上につながる。また、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な情報交換などにも期待できる。今後は、更なる他法人の同業者とのネットワークづくりが望まれる。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら工夫している	入居前に施設内を見学していただいたり、入居体験を通して環境になじみ適応できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	過去の混乱期や困窮な時代を過ごされた入居者より、物を大事にする姿勢を学ぶなど、日々の関わりの中で職員と入居者が共に認め、活かしあうように取り組んでいる。また、夕暮れ時には、家に帰りたいと切望する入居者と共感して時間を過ごすように努め、共に支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	対話を中心とした関わりの中から希望や意向を把握し、一人ひとりに応じた支援を行っている。アセスメントは、入居時に他事業所から引き継いだものを利用しており、様式が統一されていない。また独自に取り直しを実施していない。そのためか、生活歴の把握など入居者の情報収集が求められる。		入居者の生活歴や生育歴がわかると、希望・意向がより具体的に把握でき、思いや意向の把握が困難な場合においても、より本人本位の検討ができる。今後は更に生活歴など入居者の全体像を把握する取り組みが求められる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人や家族の要望は「情報提供票」に記録し、職員の日常の気づきを取り入れ介護計画を作成しているが、入居者の生活歴などを基本として入居者の全体像をつかみ、介護計画に活かしていくことが求められる。		入居時に入居者の情報を得ることは、中々難しい状況にある。折々の家族との語らいや、日々の本人との関わりからわかってきた入居者の社会背景や時代・生活歴を文書化し、それを職員全員に周知し情報の共有化を行うことが求められる。入居者の個性・能力・人物像から、「入居者がどう暮らしたいのか」を支援する介護計画の充実が求められる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的に介護計画の見直しを行っている。また、状態・状況の変化が生じた時は、その都度見直しを行っている。月1回の職員会議では個々の入居者について細かく検討している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	グループホームの敷地内には、広い庭があり、菜園・遊歩道など整備されている。入居者は自然に親しみながら、遊歩道の散歩や菜園の手入れなどを楽しむことができる。また、広い庭では、地域の方を交えた盆踊りも開催され、同法人内の他事業所との共同で行う行事もあり、ふれあい・交流を楽しむ機会が多い。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医の受診は、入居者と家族の希望を尊重し連携を図っている。月に2回の往診もあり、ホーム内の看護師と連携を図りながら、適切な医療が受けられるように努めている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>常勤の看護師が配置されている。その上で終末期の入居者に対して、医療機関とよく相談し家族の方針にそってグループホームで支援した実績がある。また、重度化や終末期の対応については運営推進会議でも話し合いを行っている。入居者や家族の意向をふまえ、医療機関との話し合いの上方針を決定している。今後は、看取りの方針など書類整備が求められる。</p>		<p>重度化や終末期に向け、入居者・家族・医療関係者と話し合いながら、看取りの方針や同意書など書類を整備していくことが期待される。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>会話をする時は、個人の尊厳を重視した態度で入居者と職員が1対1で向き合って話をされていた。記録類は保管・管理されており、調査員が記録を見ることや居室の見学もあらかじめ家族の承諾を得てあった。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活リハやレクリエーションなどのカリキュラムが日常的にあり、必ず全員に参加の意思を確認している。本人の意向を尊重し、決して無理強いはいしない方針を立てている。リビングでの入居者が居る位置が固定化し、その領域を大事にする傾向がある。しかし時には入居者の動きを見ながら食卓や椅子の位置を変えるなど入居者のペースを尊重しながらも行動範囲が広がる取り組みも行っている。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備・後片付けについては、一人ひとりの状態に応じてできる範囲で行っている。見た目を重視し、ミキサー食は用いず、可能な限り普通食の提供に努め、献立については、似通ったメニューが重ならないように、その日の担当者が留意している。新鮮な食材の提供に努め、敷地内の家庭菜園で取れた野菜を食材として活用するなど工夫している。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>日中に1日おきに入浴ができるように支援している。入居者のその日の状態に応じて時間の変更を行っている。浴室・脱衣室にエアコンを設置し、快適な入浴に努めている。診察日は体重の増減の目安を正確にするため入浴日に体重測定をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	日常におしぼりたたみ・お盆拭き・片づけなどの役割が決まっている。各人の生活歴を参考に、得意分野を活かした役割を決めて支援に努めている。季節ごとに行事(例:餅つき、夏祭り、クリスマス、誕生日会など)を計画し、楽しんでいただくように取り組んでいる。また、敷地内には家庭菜園があり、野菜を栽培している。ここで採れた野菜の収穫も楽しみにされている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天気の良い日は、周辺の散歩やみかん狩りなどドライブに出かけている。また、庭が広いので天気の良い日は、日向ぼっこをしながら、おやつ時間を過ごしている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関前がすぐ道路で車の往来が激しい国道200号線が近くにあり、安全のため施錠をしている。居室の鍵はかけてなかった。また玄関は施錠されても、食堂兼リビングより、広い庭への行き来が自由になっている。居室を間違え入居者への対応が求められる。		施錠は家族への説明・同意が求められるが、帰宅欲求などその理由や要因を探り、不安を除いたり、要求を達成できるように、入居者が落ち着く環境・落ち着くようなケアの充実が求められる。居室間違いについては、入居者の居室のドアにその人らしい特徴ある目印を付けるなど居室を間違わないように対応の検討が求められる。
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	運営推進会議で検討事項として話し合っている。また、消防署に事業所の内容を説明した上で協力依頼を行っている。近々のうちに避難訓練を行う予定にしている。夜間の災害発生も考えられ、運営推進会議などの機会を活かし、地域の協力・参加を求めていくことが求められる。		今後は、消防訓練の際には地域の参加・協力が得られるように期待したい。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養摂取については、毎日の摂取量を把握し、一人ひとりの状態に応じた栄養摂取の確保に努めている。水分確保については、1日1,200ccを目安にお茶だけでなく、一人ひとりの状態に応じて飲み物の種類を替えるなどの工夫を行っている。食事では、特に食事の大切さを考慮して支援されている。主食と汁物だけを召し上がる方には、主食の工夫や具だくさんの汁物の献立が考えられていた。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は日当たりが良く、天井が吹き抜けで開放感があり、広い空間でゆったりと過ごすことができる。季節や行事ごとの飾りつけもされている。しかしその時期を過ぎると直ちに片づけられ、メリハリのある生活を心がけている。広いガラス窓からは里山の風景や季節の花を楽しむことができるようになっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	今まで使用されていた寝具や使い慣れた物を持ち込んでいただき、居心地の良い居室となるように心がけている。中にはグループホームを「仮のすみか」としてとらえている方がおられ、徐々にその人らしい個性ある居室の工夫が期待される。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			